

〈天録時評〉

日本時事評論

編集・発行

(株)日本時事評論社
〒753-0817
山口市吉敷赤田四丁目6番38号
電話 050-3532-5152
FAX 083-928-1113
□編集部□
電話 050-3532-5149
FAX 083-922-3167
購読料 年4,800円
郵便振替01590-1-25226

最低賃金を引き上げ生産性向上を目指せ

経営者も労働者も能率向上が不可欠

活力ある社会とは、各自が自己の能力を最大限發揮して能率を向上させ、役割や責任を果たすことによって実現する。政府は継続的な最低賃金引き上げで、社会に活力を取り戻すべきである。そのためには、労働者の最低賃金を引き上げる政策を政府主導で行う必要がある。しかし、人口減少が加速する中、わが国が今後も豊かな社会を維持していくためには、労働生産性を向上させることが不可欠である。最低賃金を引き上げるとともに、経営者も労働者も、労働生産性の向上に努力しなければならない。

生産性向上が課題

大胆な金融緩和や機動的な財政政策などのアベノミクス効果により、総務省の発表で平成三十一年平均の完全失業率は二・四%とバブル期の平成三年の二・二%以来、二十六年ぶりの低水準になり、雇用状況は大きく改善した。また、現在の景気拡大は平成十四年二月から平成二十年二月までの「いざなみ景気」を超えて、戦後最長の六年一ヶ月の景気拡大を記録した。だが、国民には物価が上昇したほどの賃金上昇ではなく、景気がよいという実感は湧いていないのが実情である。わが国の経済成長率を見ても、現在の景気拡大期間

においては、ほとんど成長していない。国民の多くが豊かさを実感した、東京五輪の後の昭和四十年から大阪万博があつた昭和四十五年までの「いざなみ景気」では、年間の成長率は平均一〇%を超えていた。カラーテレビやクーラーなどの電化製品が急速に普及し、多くの人々が豊かさを実感できた。これに対して、戦後最長となつた今日の景気拡大時における成長率は平均して一%台にとどまっている。

労働生産性とは、「産出(労働の成果)」を「労働量(労働投入量×労働時間)」で割ったものである。言い換えば、「労働者一人当たりが生み出す成果」あるいは「労働者が一時間で生み出す成果」

においては、ほとんどの成長していない。国民の多くが豊かさを実感した、東京五輪の後の昭和四十年から大阪万博があつた昭和四十五年までの「いざなみ景気」では、年間の成長率は平均一〇%を超えていた。カラーテレビやクーラーなどの電化製品が急速に普及し、多くの人々が豊かさを実感できた。これに対して、戦後最長となつた今日の景気拡大時における成長率は平均して一%台にとどまっている。

〈天錄時評〉

道州制導入で行政のムダを省き効率化を

国の活性化に地方自治体への権限移譲が不可欠

地方は若者が都市部へ流出し、過疎化がどんどん深刻になつてゐる。過疎地へのインフラ整備などへ予算を回す余裕もなく、地方自治は行き詰つてゐる。こうした問題を解決する一つの方法が、国の行政機関や機能、財源を地方に移管し、地域の特性に応じた施策で活力を引き出す道州制の導入だ。行政の効率化、地方自治の促進、地域間格差の是正、国の行政のスリム化・効率化のためにも、道州制の導入を急ぐべきだ。

疲弊する地方 わが国の地方では、人口が減少したために一定の生活水準の維持ができなくななる状態が進行する過疎化が進んでいる。その地域は、全国の市町村数の四割以上を占めている。過疎化は、若者の第一次産業離れや東京一極集中による都心部への人口流出などによつて引き起こされた。

東京一極集中という現象は、国が一律に政策を決めた政治のあり方に原因がある。山の中にある村と海辺の村、限界集落と都会ではそれぞれ抱えている問題も解決手法も違う。こうした問題を中心で一律に考えていく限り、効率的な問題解決につながっていかない。一方で、市町村や都道府県に任せて、予算や能力面で限界がある。

東京一極集中という現象は、国が一律に政策を決めた政治のあり方に原因がある。

こうした状況を改善する方策として、道州制の導入が検討されてきた。道州制の導入は、国と地方の行政のあり方として、国防や外交など国が本来果すべき役割以外は、地方は財源、権限を委譲して、住民サービスの向上や地場産業の育成、振興に取り組むことが目的だ。

と後退してしまい、道州制推進本部も平成三十年には廃止されてしまった。

制はき的な利点がある。例えば、広域にわたる道路情報も元管理でき、事故や災害報を迅速に把握し、住民

航空産業やバイオ関連の業、新エネルギー産業などを育成できるとしている。自動車・半導体、農業と

基。ど産

辻 和也・
手を離す
一、少年は手を離す
目を離す

道州制の導入を

産業がある。また、九州電
力連合会によれば安川電機

機 經

子育て四訓

一方、大阪府の橋下徹知事が掲げられ、道州制が実現された。自民党も平成十四年の衆院選の公約で道州制基本法早期制定後半以内の導入を目指すことをもとに導入を目指すことを示した。

都市部から離れた地域では「ますます置き去りにさわれる」との懸念もある。しかし、こうした理由で道州制導入に向けた議論を疎かにすれば、過疎の問題や地方の振興、あるいは東京一極集中の弊害を改善することはできない。道州制の導入により様々な問題が生じるだろうが、これから日本の活性化のために大胆な改革を進めることができずである。

整備や専門的な医療機関の効率化による大規模災害発生時に、団体への応援要請、国・係防災機関との連絡調整などが簡素化し、迅速な対応が可能になるなど、指揮命令系統の一元化が進む。産業分野でも道州制は点がある。例えば、九州は自動車と半導体、そして農業といった全国に誇れ

きると考えられている。人口減少社会を迎える中、地方をどのように発させていくかが、今後の日本の大きな課題となつてゐる。道州制を導入し、それぞれの地域の特性を活かした行政のあり方、産業のあり方を、その地域に住むたちによつてつくりあげことができる地方自治を確立すべきである。

確る人あしれない日展る地



脊椎矯正・整体指圧 池田長生館治療 池田三喜男

<p>(株) アイル 埼玉県志木市本町4-11-3</p>	<p>〒192-0071 東京都八王子市八日町9-2 TEL 042-622-1379</p>
<p>弁護士 高橋美智留</p>	<p>志村直樹</p>

草木占

くらら／眩暈
クララ」とい
う名称は日本語
で、この言葉を嘔
吐するほど苦いこと
から、「くらら

A black and white photograph showing a close-up of a plant's reproductive structures, likely a flower or seed head, with many small, rounded, pointed structures arranged along a stem.

アンクレスト

美津

もとなみー

憲法改正 日本會議 国立・国分寺支部

美津

<天録時評>

学び舎の歴史教科書を斬る(10)

重慶爆撃は「無差別爆撃」に非ず

一九三七年から始まった支那事変（日中戦争）に関する記述では、相変わらず自虐的歴史観に基づく記述が満載である。特に、学び舎の中学校歴史教科書（以下、学び舎）では、南京事件に関する記述は言うまでもなく、重慶爆撃までも「無差別爆撃」と記述し、日本本の負の歴史を誇張、歪曲している。これでは子供たちは、「日本＝悪い国」と刷り込まれてしまう。

国民党政府の怠慢

重慶爆撃は、支那事変中の一九三八年から一九四一年にかけて、蒋介石率いる国民党政府が首都とした中國大陸部の重慶に対して、

日本軍が、国民党政府の軍事施設を爆撃機で攻撃した戦略爆撃である。国民党政府は、山々に囲まれ、陸上からの攻撃が困難な内陸に

ある重慶へ首都を移し、長期戦に持ち込もうと考え、

行方不明になつたかというと、金次郎はまず農民に働く意欲を持たせ、米や農産物の収量を上げることで、全体が豊かになつていく方法を執つたので、目先欲の強い武士からは、いつまでたつても自分たちは豊かにならないと、不満がたまつていつたのでした。実家にあたる小田原藩の中に金次郎の方法を支持する家老たちもいましたが、反対していた輩は、いずれは自分の身にもこのきびしい財政再建が及ぶのを恐れて、金次郎のもとに、邪魔くりの役人を差し向けていた。

小田原藩で育つた二宮忠真の耳にも入り、命を受けた。そのことが藩主大久保忠貞の耳にも入り、命を受けた。その三村の復興にとりかかります。

江戸末期のこの頃は、長年の年貢の重圧から農民は働く意欲をなくし、武士は我慢するわけです。

そんな中、なぜ金次郎が豊田正作、この男が桜町

に決着を目指し、軍事施設への空爆を行つた。

重慶爆撃について、学び舎は「重慶への大爆撃」との見出しで、「日本軍は、一九三八年から、重慶の市街地などを無差別爆撃しました。空襲で住民に恐怖をあたえ、日本軍への抵抗をやめさせることができないでした」と記述している。続

いて、「一九四〇年になると、空襲は百十二日間連續で行われ、市民の死傷者は

怖を与えるために無差別に攻撃したのではない。国民党政府があえて一般住民が多く住む市街地に軍事施設を置いたため、重慶市街地を爆撃せざるを得なかつたのである。

また、多数の犠牲者が出ていたのは、国民党政府が空爆に対する充分な都市防御策を立てたからだ。国民党では、「無差別爆撃」ではなく、「監視」されている状況だった。そうした中、重慶に

日本軍には無理

状況である。しかし、学び舎の記述では、日本軍の空爆は、重慶の一般市民を目標に行つたものと誤解されるものだ。日本軍の空爆は、決して一般住民に対して恐

怖を与えるために無差別に攻撃したのではない。国民党政府があえて一般住民が多く住む市街地に軍事施設を置いたため、重慶市街地を爆撃せざるを得なかつたのである。

重慶爆撃が「無差別爆撃」でなかつた理由は、当時の日本軍の置かれていた立場を考へれば理解できる。当

時、中国大陸に進出していく日本軍は、欧米諸国の中でもなかつた理由は、当時の日本軍の置かれていた立場を考へれば理解できる。当

日本軍には無理

善の種子2

「小さな種子の物語」(25)

作・画 野村 典成

昔のとおりの収入があるかのごとく生活し、幕府も各藩も膨大な借金を抱えて、首の回らない状態でした。そういう中で、金次郎は、まず桜町領の年貢を決めます。過去百年間の生産量を調べ、平均を出し、年貢を決定します。当然その年貢は低くなります。その中で武士はやりくりするわけです。復興が進み余剰が出れば、それは復興資金として使い、十年間はその年貢で我慢するわけです。

小田原藩で育つた二宮忠真の耳にも入り、命を受けた。そのことが藩主大久保忠貞の耳にも入り、命を受けた。その三村の復興にとりかかります。

江戸末期のこの頃は、長年の年貢の重圧から農民は働く意欲をなくし、武士は我慢するわけです。

そんな中、なぜ金次郎が豊田正作、この男が桜町

に決着を目指し、軍事施設への空爆を行つた。

重慶爆撃について、学び舎は「重慶への大爆撃」との見出しで、「日本軍は、一九三八年から、重慶の市街地などを無差別爆撃しました。空襲で住民に恐怖をあたえ、日本軍への抵抗をやめさせることができないでした」と記述している。続

いて、「一九四〇年になると、空襲は百十二日間連續で行われ、市民の死傷者は

怖を与えるために無差別に攻撃したのではない。国民党政府があえて一般住民が多く住む市街地に軍事施設を置いたため、重慶市街地を爆撃せざるを得なかつたのである。

また、多数の犠牲者が出ていたのは、国民党政府が空爆に対する充分な都市防御策を立てたからだ。国民党では、「無差別爆撃」ではなく、「監視」されている状況だった。そうした中、重慶に

日本軍には無理

状況である。しかし、学び舎の記述では、日本軍の空爆は、重慶の一般市民を目標に行つたものと誤解されるものだ。日本軍の空爆は、決して一般住民に対して恐

怖を与えるために無差別に攻撃したのではない。国民党政府があえて一般住民が多く住む市街地に軍事施設を置いたため、重慶市街地を爆撃せざるを得なかつたのである。

日本軍には無理

状況である。しかし、学び舎の記述では、日本軍の空

爆を行い、その結果、重慶市民が被害に遭ったことは

事実である。しかし、学び

舎の記述では、日本軍の空

爆を行つたものと誤解させられるものだ。日本軍の空爆は、重慶爆撃について学び舎の見出しで、「日本軍は、一九三八年から、重慶の市街地などを無差別爆撃しました。空襲で住民に恐怖をあたえ、日本軍への抵抗をやめさせることができないでした」と記述している。続

いて、「一九四〇年になると、空襲は百十二日間連續で行われ、市民の死傷者は

怖を与えるために無差別に攻撃したのではない。国民党政府があえて一般住民が多く住む市街地に軍事施設を置いたため、重慶市街地を爆撃せざるを得なかつたのである。

また、多数の犠牲者が出ていたのは、国民党政府が空爆に対する充分な都市防御策を立てたからだ。国民党では、「無差別爆撃」ではなく、「監視」されている状況だった。そうした中、重慶に

日本軍には無理

状況である。しかし、学び

舎の記述では、日本軍の空

爆を行つたものと誤解させられるものだ。日本軍の空爆は、重慶爆撃について学び

舎の見出しで、「日本軍は、一九三八年から、重慶の市街地などを無差別爆撃しました。空襲で住民に恐怖をあたえ、日本軍への抵抗をやめさせることができないでした」と記述している。続

</

